

■第5回 議事録

日 時：令和6年2月8日（木）10時～12時

場 所：東大阪市立障害児者支援センターレピラ5階大会議室

出席者：松端議長、田村委員、潮谷委員、坂本（ヒ）委員、和泉委員、濱田委員、太田委員、
比名委員、坂本（諭）委員、高橋（昌）委員、妹尾委員、川邊委員、児玉委員、
胡中委員、本多委員、西川委員、高橋（尚）委員

次 第：1 案件

- （１）パブリックコメントの実施結果報告並びに東大阪市障害者計画等（案）
- （２）計画設定値の修正等について
- （３）補足等

会議の経過

○開会あいさつ

○配布資料の確認

【松端議長】

- ・ 前回の議論を踏まえパブリックコメントも実施され、その結果を踏まえた最終回となるのでよろしくをお願いしたい。
- ・ ではパブリックコメントの結果について説明を。

○事務局よりパブリックコメントの実施結果報告並びに東大阪市障害者計画等（案）について資料説明

【松端議長】

- ・ 全部で51項目とのことだ。何か質問などあるか。パブリックコメントはこれらに対して回答を明示し、それを計画にどのように反映するのかということになってくる。
- ・ 意見がなければ次の案件へ。

○事務局より計画設定値の修正等について資料説明

【松端議長】

- ・ 作業工賃を16,000円にということだが、これは根拠があってという訳ではなく概ねこの程度という感じだろうか。大阪市、枚方、堺、八尾あたりの額から16,000円くらいということだろう。
- ・ 重症心身障害児を支援する放課後等デイサービスは今年度末に1か所開設ということで4から5か所に増える。
- ・ 就労選択支援事業はまだスタートしていないが、他市の状況を見ながらということで、や

や控えめの目標だ。

- ・グループホーム、強度行動障害の支援の大きな柱となっているが、強度行動障害の人も含めたグループが令和8年度151名ということだ。
- ・何か意見はあるだろうか。就労選択支援事業については少ないのではないか。

【事務局】

- ・仮置きではあるが少し控えめかとは思う。

【松端議長】

- ・人口規模からしても50名くらいはあってもいいのではないか。

【事務局】

- ・本当に仮置きという形で置いた数字だが、周辺自治体でもそれなりの数字を出して来ているので、意見をいただければ変更したいと思う。

【松端議長】

- ・八尾よりも人口が多いので、八尾プラスアルファ、1.2倍くらいしてはどうか。

【坂本（ヒ）委員】

- ・グループホームだが、これまでの実績の数字は分からないのか。

【松端議長】

- ・表の上にある132名が実績だ。

【事務局】

- ・では就労選択支援は八尾の1.2倍の方向で調整したいと思う。

【松端議長】

- ・調整をお願いしたい。では他に何かあるだろうか。

【事務局】

- ・前回障害児計画の96ページ以降の説明が不十分だったのでそこだけ説明しておきたい。

○事務局より障害児福祉計画部分について資料説明

【松端議長】

- ・障害児福祉計画部分を説明いただいた。
- ・96ページ、重層的な支援体制、児童発達支援センター中心に、東大阪の場合はレピラがあるのでここを中心に支援していくことになる。98ページは重症心身障害児の支援のための事業の整備、確保。99ページ、医療的ケア児の支援、コーディネーターの配置なども含めてとなる。何か意見はあるだろうか。
- ・なければ計画素案全体について何かあれば意見をいただきたい。今日が最終回なので順番に意見をうかがっていかうと思う。

【高橋（尚）委員】

- ・いろんなことを勉強させていたいた。長瀬の地域協議会から来ているが、東大阪市の大規模公営住宅のひとつで、非常に高齢化率が高く建て替え期に入っているがまだまだ住んでいる人もいる。足の不自由な高齢者などもいるがバリアフリー化も進んでおらずなかなか外に出られない。公営住宅でもあるので、バリアフリー化を進めていただきたいと思って

いる。

【西川委員】

- ・ グループホームだが、今年に入って強度行動障害の人が2人断られるケースがあった。その理由として、歯磨きの仕上げはしない、大便の処理ができない、女性なので生理の処理もできないということで、平日通所で発熱等で3日休んだら退所してもらおうという厳しい条件が出ており、1名は体験すらなく諦め他のグループホームを探しており、もう1人も体験はしていたが他人の食べ物を盗る等の理由で断られてしまった。
- ・ 強度行動障害の人がグループホームを探してもなかなか受け入れてもらえない実情を把握していただき、人材不足もあると思うが、本人の障害を理解し受け入れてもらえる体制をつくってほしいと思う。

【松端議長】

- ・ 強度行動障害は自傷もあるし他害や他の人の物を盗ってしまったり、障害が重ければトイレなども自分でできなかつたりする。ただ、介助が必要なだけであれば事業所も対応が可能かもしれないが、行動上の対応が難しいので現実には断られてしまう。
- ・ 通所も退所になったのか。

【西川委員】

- ・ 通所はまだ通えているが、グループホームから通所へ行く場合、3日休むと退所という厳しい条件になっている。

【松端議長】

- ・ 事業所もちゃんと来てもらうことでお金がもらえるので、コロナ禍などで潰れたところも多い。通う人がいないと収入が入ってこない。事業所の経営の話があるにしても、実際専門性でいうと強度行動障害の対応が難しい人へ支援ができてこそだが、実際は手がかかるのでなるべく避けようという話になってしまう。

【西川委員】

- ・ そもそも強度行動障害を受け入れる体制もない。はっきりと歯磨きの仕上げはしないとかわれてしまった。

【松端議長】

- ・ それはもうしないと言われるのか。

【西川委員】

- ・ そうだ。その人は管理者だが、現場に聞いてみないと分からないという回答で、経営と現場の格差があるのだろうと感じる。

【松端議長】

- ・ 人手が足りていないから福祉の専門ではない人でもとりあえずというケースもあるだろう。現場の厳しい現実があることは共有しておく必要がある。

【本多委員】

- ・ 毎回計画策定時に出ているのかもしれないが、第5章の計画の推進に向けてだが、時間が限られた中で苦勞をいただき計画が完成して本当に良かったと思う。ここからは計画をどう実行、推進していくのか、PDCAサイクルとしてどこで計画の推進状況を検証、把握、評価、分析していくのか、次の計画に向けての問題提起はどのように行っていくことにな

るのが気がかりだ。

- ・また、計画のなかに数値として出て来ている問題ではないが、意見のなかでも人材の問題が出て来ていると思うが、どの事業所もマンパワー不足で疲弊し苦しんでいる。東大阪という非常に人口の多い中核市だが、小規模事業所が数多くある。そのなかで人がなかなか来ないし育たない問題があり、各事業所の個々の努力で頑張っている状態だ。この状況はもうしばらくは福祉の人の頑張りで持つとは思いますが、近い将来限界がくるだろう。こうした計画やいろんなサービスを提供していくのは現場のマンパワーであり、行政もみなさんもそのノータッチではおれない時代がもうすぐそこに来ると思っている。計画の数字とは直接関係ないかもしれないが、こうした深刻な問題が近い将来、目の前にあるのだということによって官民協働で力を合わせてこの問題に立ち向かっていきたいと思う。

【松端議長】

- ・計画評価については、いつも立てるだけでなく後の検証評価の指摘だ。
- ・また、人材不足は深刻な課題だ。もういつまでもつかといった状態だ。課題共有してどうしたらいいか考えなければならない。

【胡中委員】

- ・いろんな事業所の人やみなさんが、こういう社会資源が不足しているという点に着眼して高いビジョンを持たれて運営している人たちとなかなかお会いできる機会がないので本当にいい勉強になった。
- ・わずかながらだが将来、うちのような精神の就労継続と自立訓練などへ来なくてもいい人をひとりでも増やすということで、大阪市の療育をしていたこともあるので児童精神の相談を少しだが行っている。やはり学校に行けないという実情がある。また、19や20歳の人もいるが、以前の引きこもりよりも難しくなっている。うちに来てもすぐに休んだり引きこもってもチャットがあったり友人もいたりすし、われわれとの関係性もあまり求めているというような時代的背景も出て来ている。
- ・精神の人も、そんな工賃の安い所へ行っても何になるのかと言い、リハビリ効果をうたってもそういうことへの意識が少なかったりする。
- ・数年前に引きこもりに対する窓口が出来てよろこんだが、そこからどうすればいいのか、つながりにくいので窓口に行き難いという話も聞く。先日も中2で学校に行けなくなった子の家族と話をしていたが、何も使えるものがなく、放デイも子どもがいっぱいで思春期の子どもが落ち着いて居る場所がなく、学校からも居場所がなく零れ落ち、サービスのなかからも零れる人がいるのでなんとかできればと感じる。
- ・計画の中でも思春期を花開けるような、施設に来る人が少なくなるような東大阪になってほしいと思う。

【松端議長】

- ・予防できればいいが、ただ不登校が30万人、引きこもり146万人といわれすごい数の人がそういう状況にあり、おそらくもっといるだろう。
- ・対話が難しくなっていると感じる。単純にこうすればいいという目標が明確に持てればいいが、生き方も多様化しており、どうしたらいいかということが共有しにくい。

【児玉委員】

- ・先ほども意見があった点検評価だが、自立支援協議会の事務局長も担っているので、福祉計画3年に1回のタイミングですごく集中するが、間の2年間で手薄だと思うので、次期計画策定に向けて活用できるようにしたいと思う。
- ・障害児計画の方だが、別で書いてもいいのではないかなと思うほど子どもの方は課題山積で、もうちょっと広く意見をいただければよかったのではないかなと思う。やはり、子どもの数がこれだけ減っているのに、サービスは右肩上がりになっており、これでいいのか疑問だ。国や府の動きがこういう数字なのだと思うがあまりしっくりこない、マンパワー不足なのに障害児のサービスはぐ得て行くのかという疑問がある。

【松端議長】

- ・これだけ少子化のなか障害児系サービスの必要度がすごいことになっている。おそらく先ほどの意見にもあったが、子どもが生きづらい社会になっているのではないかな。発達障害かどうか別にしても落ち着きがなかったりすぐに癇癪を起したりする子が増えている。精神的に不安定だからではないかな。家庭環境もふくめ生きづらい社会なのだろう。

【川邊委員】

- ・本日机上に配布させていただいたが、「統合失調症とは」「知って欲しいこころの病気の精神疾患」といったパンフレットがある。精神疾患は幅広く個々に違いがあり、特に大人になっている発達障害系の支援は非常に難しい問題を抱えている。その辺りについての研修であったり理解であったりを、支援者や家族に向けての講演についてあればいいと思うので、情報が入ってこないという声もアンケートにあったように、今後はこうしたことに取り組みながらわれわれも細かい情報を発信したいと思う。ただ、自立支援協議会には家族の立場では手をつなぐ親の会が入っていただいているが、われわれ精神疾患に関しては現在に入れておらず、なかなか発信できていない。時折はこうして発信する情報を配布したいと思うのでよろしく願いたい。
- ・また、自立支援協議会は現在制度的に傍聴できないが、傍聴できる体制で意見を発信できる場を今後よろしく願いたい。

【松端議長】

- ・精神障害、統合失調症、発達障害など人知れずしんどい思いをしている。みんなに共有されないまま家族だけがしんどい状態だ。

【妹尾委員】

- ・パブリックコメントに関してちゃんと書いていただき嬉しかった。
- ・優しい日本語の説明が増えて欲しい。
- ・目標数値について、全体的にグループホームに入れる人を増やしていく計画であればいいと思う。重度の人のグループホームで安心して暮らしていけるように、虐待などで困らないように支援者を研修してほしい。安心できるグループホームが増えて欲しいと思う。

【松端議長】

- ・表記は比較的優しくなったが、とはいえ文字も多いし表現が難しい部分もある。

【高橋（昌）委員】

- ・数値目標もそうだが、数値で測っているところが計画のなかでもあると思うが、やはり質の向上などといったシステムづくりもしっかり行う必要があると思う。

- ・このところ虐待案件などでもかなり酷い案件があり、国でも身体拘束等の適正化の推進の流れがあるので、そのあたりもふくめて質の向上、システムづくりを検討していくことが計画でも必用になってくるのではないかな。
- ・計画を立てる時間もないなかで苦勞していただいたと思うが、今意見にもあったが、やはりもう少し分かりやすく説明できるようなバージョンを検討できる時間があればいいと感じた。

【松端議長】

- ・虐待も増加しており何かと大変な状況だ。サービス量がメインの話になりがちだが、質の向上も重要だ。

【坂本（諭）委員】

- ・文章のなかに喫緊の課題、努めます、取り組みますと書かれているが、その後がどうなるのかというのが見えていないので、計画を立てて打ち出したあと、その後の見直しまでに実際にどう動いていくのかがおもてに見えるようにしていただきたい。
- ・ここ最近よけいに気にしているのかもしれないが、緊急時の災害時などどう取り組んでいくのか各事業所での事業計画を立てて行うかと思うが、実際そうなったときにおそらく現状ではみんなで手をつないでどうにかしていこうみたいな流れはないのではないかなと思っているので、やはり何かしら動かなければ実際起こったときには取り返しがつかないことになってしまうのではないかな。
- ・ヘルパーについてだが、移動支援は今1時間2,000円の単価で行ってるが、最低賃金がどんどん上がり賃上げの流れが出ているなか、各事業所が頑張って時給を上げて行こうという流れもあると思うが、例えばそれで移動支援に1時間1,400円付けましょうとなった場合、事業所の収入がどんどん減っていく。他のサービスであれば加算があるが、移動支援は現在1時間2,000円だけだ。事業所が頑張っているけど、利用者はどんどん外出したい気持ちがあっても事業がそもそもうまくいかないのではないかなと感じている。計画では強度行動障害への加算を考えているような内容があったが、移動支援自体も考えて行かなければ事業所自体が頑張っていけない時代がきていることを理解していただきたい。

【松端議長】

- ・人件費をあげると事業所の収入が減るし、運営が大変になる。かといって人件費を削ると人が来ない。制度上、仕組みを考えなければいけない。

【比名委員】

- ・委託相談で区分の高い行動障害のある人の入居支援に携わっているが、夜間の行動障害があるということで支援が難しいということで、グループホームとも何度かカンファを重ねたが結局ロングショートになっている。そのグループホームは他にも行動障害の人を受け入れおり、受け入れる気がないわけではない。ただ、夜間1人体制の中で見れる範囲に限られてくる。やはり区分が低くないと難しい。行動障害の人の夜間生活の場を保障しようと思ったら、体制が1人では無理だろうと感じている。
- ・精神障害の生活の場について、アンケートでは半数ほどがひとり暮らしを希望しており、グループホームはほとんどないくらいだった。しかし実際に東大阪では令和5年で238人が利用しており凄くニーズがある。本当にグループホームがいいと思って入っている人が何

人くらいいるのか疑問だ。実際に関わっている人でも何人か本当はひとり暮らしがしたいという声がある。グループホームは地域生活の要ではあるが、権利条約の総括所見などでは決してグループホームは地域生活ではないという指摘になっており、この点を心に留めて関わっていかなければならない。ただ、グループホームからひとり暮らしを支援する際に、自立生活援助の制度があるが、東大阪市には事業所も少なく目標値も減って行っている。本当ならグループホームを経営している事業所が自立生活援助を取り、グループホームにいる間から自立を目指して支援するような、そういった支援体制が理想ではないかと思う。委託としてできることはやっていきたいと思う。

【松端議長】

- ・グループホームは結局ベストではなく、あくまでも支援の効率上、似たような人が集まって支援の方が効率がいいというのが入所施設だ。本来普通の人はグループで暮らさないし、ひとり暮らしなり世帯なりで暮らすのが基本だ。国連の勧告でもグループホームが決してベストではないということだ。
- ・入所者も多く、精神障害では入院の患者も多く、日本は先進国で突出している。その辺りをもう一度考える必要があるだろう。

【太田委員】

- ・自分の会社でも実際に障害者の雇用があるので、アンケート調査の検討時も内容を見ながら企業として一緒に働いていくために必要な支援やまだまだできていない点あり、実際に不安に感じている人がいるのだと勉強になった。一緒に働いていくためにどのようにするべきか考えて行く必要があると感じた。

【松端議長】

- ・企業も合理的配慮の義務があるので、建設的にしっかり話をしてどういう配慮が必要なのか考えて行く必要があるだろう。

【濱田委員】

- ・視覚障害なので同行援護としてガイドヘルパーと常に行動しているが、ガイドヘルパーも最近高齢化しており、新しい人も入ってこず大変困っている。大阪市の方から事業所が入ってきているようなところも一部あり、先ほどの単価の話聞き仕方ないのかと感じた。2,000円の部分が2,300円くらいになってくれれば事業所も安心すると思うが、ガイドさんが1,000円、休日は1,100円ほどで今は頑張ってくれているのでありがたい。
- ・知的障害者には作業所などがあるが、視覚障害にも軽作業のB型就労があるらしいが、それほど広まっていないので、みんなで視覚障害者もできる仕事を増やしていただければと思う。デイサービスなども、晴眼者のなかに視覚障害者が入っていくのでアイコンタクトなどのコミュニケーションが難しく、みんな苦労している。
- ・協会には若い人が入ってこなくなっており、今の人たちは情報は欲しいが協会活動などに縛られたくない気持ちがあるのではないかと思う。若者たちの考え方も変わってきており、そういう点をどのように理解すればいいのか分からないので、教えていただければと思う。
- ・今現在われわれは行っていないが、河内長野市では視覚障害者にピアカウンセラーの資格を取得させ、電話相談などの仕事を行っているそうだ。もしそういうことが可能であればぜひピアカウンセラーを視覚障害者に受けさせ、当事者に寄り添えるような場へ就職でき

ればと思う。

【松端議長】

- ・ガイドヘルパーも人材不足だ。日本全業種で人材不足だが、特に福祉系は難しい。
- ・日中活動の場の必要性や、単価が安いので市が補助する制度なので市の方で単価アップの検討が必要だろう。
- ・当事者団体についてはどの団体もそうだが新規加入者がいなくなっている。昔に様にサービスがなければ団結し運動し勝ち取っていたが、今はメニュー上いろいろなサービスがあるので、本人からすれば如何に利用するかに関心はあるが、それこそ移動支援のガイドヘルパーの単価アップのために運動しようということにはなかなかならない。やはりサービスの利用者、消費者になってしまっている。また、マインド的にも力を合わせて何かをするよりも、個人主義化してしまっている。
- ・ピアカウンセラーとして活躍しそれが収入になるようであればそれはよいだろう。

【和泉委員】

- ・先日地域福祉活動計画の会議があったが、保育の分野は人材確保のため重点項目で人材確保があがっていたが、介護と障害ではあがってきていないとの説明があった。これはプロセスは分からないがなぜなのかわかりたい。
- ・グループホームの質の問題だが、人材不足と質は似通ったような問題かもしれないが、うちの日中に民間のグループホームから通っている行動障害のある利用者がいるが、やってきた際にズボンと上着を括りつけられてズボンを脱げないようにされていたり、ベルトのバックルを後ろにもってこられていたりと明らかに虐待にあたる状態だった。相手の事業所にいうとその職員を辞めさせて終わりといった体質が事業所としてできあがっている。それが是か非かという議論もなかで起こらないのだろう。そういったところへ民間が踏み込めないで、ある程度行政が踏み込んでいただき、質の管理を行っていかなければ難しいと感じる。
- ・重度化、高齢化はうちも直面しているが、10年程前に大学の先生が知的高齢者の高齢化は10から20歳プラスで考えるようにとの話があり、実際うちでも先月ひとりインフルエンザになり体調が悪かったので医療センターに入院したところ、心臓に水が溜まっており血液ガンになっていた。この人はまだ49歳だ。現在日赤に入院しているが、パフォーマンスステータスが足りず抗がん剤治療を行えないため、余命1か月と言われ大変なことになっている。こうした難しいケースをどうしていくか考えているが、共通していえるのは権利擁護の部分でその人の人生をどう考えるか、われわれ福祉の専門職として寄り添っていくといったことになるだろう。
- ・権利擁護の意識がどんどんなくなっているというのを一番感じているので、そういったあたりもきっちり官民連携して計画と併せて伝えていく必要があるのではないかな。

【松端議長】

- ・権利擁護でいえば本当に質の面で良くなったかという怪しい面がある。失われた30年と言われるが、福祉業界が何か進展したかと言うと大分怪しい。
- ・身体拘束も、そのようなあからさまなものは虐待対応案件になると思うが、事業所はその職員を辞めさせて終わる話ではない。

【坂本（ヒ）委員】

- ・知的障害の親の団体になるが、知的障害者にとって計画相談は非常に重要で、やはりそのなかでセルフプランでなければならないという人も多く、高齢化などいろいろあるとそれを中心にサービスにつながるなどその人の人生がどうなるかという面でも重要な部分だ。しかし人が少なかったり事業所が少ないというのは大きな問題だ。また、いい相談支援事業所があればと感じる。
- ・また、必要な人に必要なサービスについての情報提供は非常に重要だ。団体内では情報を伝えているが、そうではない人に情報が伝わらないという課題がある。保育所等訪問支援事業などもそうだが、直接保育所に親がお願いしていくもので、親が言わなければいけない。通っている親が知らないケースや保育所が制度を理解していないケースなど疑問に思う部分もあり、情報が必要な人に届けばいいと感じる。

【松端議長】

- ・家族の立場からしても大変だろう。

【潮谷委員】

- ・先ほども意見があったが、努めていきますといった中身をどう詰めて行くのかが大きな課題だ。特に相談支援から重層的支援体制へつないでいくことが重要になってくる。その辺りで今東大阪のなかにある指定特定または委託相談、基幹といったつながり、どうやって困難事例をあげていき検討していくのかということを決めて行く必要がある。東大阪市のホームページを見ると、重層的包括支援体制の相談表がそのまま載っている。では指定特定がどこにも相談なく上げていいのかというと、そうではない。それぞれの階層があり検討を行ったうえで困難事例を上げていくことが大事になってくる。その辺りの会議体の位置づけを整理していく必要があるし、主任の役割も整理する必要がある。国からも3月中旬くらいに相談支援のあり方についての報告が出るということなので、踏まえて検討をお願いしたい。
- ・また、意見にもあったが、セルフの現状について分析するというのは国や府からも提言が出ており、この計画には今更かもしれないが、少しセルフについての検討を行っていくという形で入れてもいいのではないかな。障害児については100%計画をつけていくということをやっているが、やはり高齢者になる前にセルフになっている状況、65歳になって急いで計画を作っていくのは大変であり、60歳代でセルフになっている人はどれくらいいるのか、強度行動障害でセルフになっている人、8050の状況でセルフになっている人など、洗い出しはしていかなければ計画相談が追い付かない状況になる。セルフの分析の検討をお願いしたい。
- ・82ページ、地域移行の数値だが、施設からの地域以降目標値6%で14人と掲げているが、そう考えるとこの3人という数字は妥当なのか。一方、地域定着支援は一定数掲げられている。地域移行の実績値から出すとどうしてもコロナもあり地域移行が出来なかったし、精神障害者の地域移行は進めていく必要があるのもう少し目標値を検討してはどうか。
- ・重症心身障害児の受け入れ体制について何か所か出ているが、これも情報をぜひ公表していただき、実際に受け入れ可能かどうかという情報を市でおさえていただき基幹や委託に情報を下ろしていただくことが重要だ。この辺り実体化していく中で実施していただきたい

い。

【松端議長】

- ・重層絡みでは相談支援をどうするかは大きなテーマだ。また、セルフプランのチェック、地域移行の数など、最終調整が必要だろう。

【田村委員】

- ・今のセルフプランに関しては非常に問題意識があり、15ページに少しキーワードは入れている。セルフプランの実態把握に努めるとということで文章表現していただいている。
- ・意見を聞いていると、障害者自立支援法は2006年に移動支援が2,000円で東大阪市は突出していたが、18年経って、つついヘルパー養成講座の補助金などに流れてしまうが、実際の単価自体も報酬改定で上がっている部分もあるかもしれないが問題意識を持たなければと感じた。
- ・これだけ意見をいただき、今回の計画は量的整備から質的整備へシフトしなければいけないという問題意識が芽生えてきたことが見える計画になってきたかとは思っている。マンパワーについても、単価だけでなく、供給側、教育関係機関とどう連携しながら何を持って行ったら学生は就職してくれるのかといった点も検討してはどうかと感じた。
- ・提案だが、この計画策定会議のパターンを変えてはどうか。アンケートを取って分析しているから時間が足りない。しかしもう7期であり、もちろんアンケートは取るがこれだけの委員が集まっているので、アンケートと同時並行でPDCAを総括から入ることも可能はずだ。これまでの計画がどうだったのか振り返りから入っていくことを4月5月あたりからやっていけば、例えば障害者と障害児の分科会形式にして内容を詰めたり、委員以外でもっと外部から意見を聴くなど、バリエーションをもった形で、より質的整備へのシフト変換をやっていけるのではないかと。計画策定パターンを行政側にも考えていただきたい。

【松端議長】

- ・5月くらいからスタートし、計画評価、この2年間進捗はどうかをチェックしながらアンケートを取って行けばより中身の濃い議論ができるのではないかと。
- ・質的な整備へのシフトということで、量的整備プラス質の向上を考えなければいけない。そういう仕組みが必要だろう。
- ・先ほど質問のあった、地域福祉計画では人材確保があがっているという話についてはどうなのか。

【事務局】

- ・地域福祉計画は5年に一度策定しており、今年度は障害計画、高齢計画と共に策定年度となっていた。地域福祉計画は福祉計画の上位計画となるので、障害、高齢、子どもの分野のさまざまな分野の事業であったり地域福祉に関する取り組みをまとめる計画ということで策定をしている。
- ・人材確保については、各分野とも課題であるという認識はそれぞれ持っているが、特に保育については福祉団体で実施している就職フェアだけではなく、保育団体だけでフェアをやった方が有効だということで個別実施しており、そこを重点と捉えて今進めているところだ。市としては介護も障害も人材確保が必要だと思っているが、アプローチの手法が違

うと思っている。高齢や障害であれば若い世代への魅力発信ということで小中学校での体験や取り組みをいただいております、これらは今後も進めていかないといけないと思っている、それぞれの分野で有効的な手法については計画策定などを通じて検討していくべきものかと思う。取り組まないということではなく、各分野とも必要な課題であるという認識だ。

【松端議長】

- ・例えば保育であればそのようなやり方があるが、全分野で同じようにはいかないということだろう。
- ・介護や障害に関しては外国人の受け入れが始まっているが、保育に関してははいよいよ人がいない状態で、人材派遣会社に依頼し30%ほどピンハネされてしまいうがそれでなんとか確保しているというような状況だ。
- ・その意味では移動支援の話もあったが、2006年から市の事業で独自にやっているが、当時2,000円だったので高かったが、その後上がっておらず評価がひつようではないか。

【事務局】

- ・地域生活支援事業は市町村独自なので、日中支援事業も単価が安いというお話をいただいているので、全般的に単価、物価上昇等を総合的に考慮しながら検討していく必要があると感じている。

【松端議長】

- ・かつては東大阪は先駆的だったが、その頃からするとあまり先駆的ではなくなってしまったかもしれない。当時は制度を取り入れ積極的だった覚えがある。
- ・質の確保もふくめ、委員会のあり方ももっとダイナミックな動きが出来る方がいいだろう。次回はスタート時期を早めて、アンケートの結果はしながら考えればいいので、とりあえずチェックをしっかりとっていくということが必要だ。
- ・では全体を通して何か意見はあるだろうか。今後審議会があるので、それまでに事務局と私と副議長で調整したいと思う。これで案件は以上となる。

○閉会あいさつ

(以上)